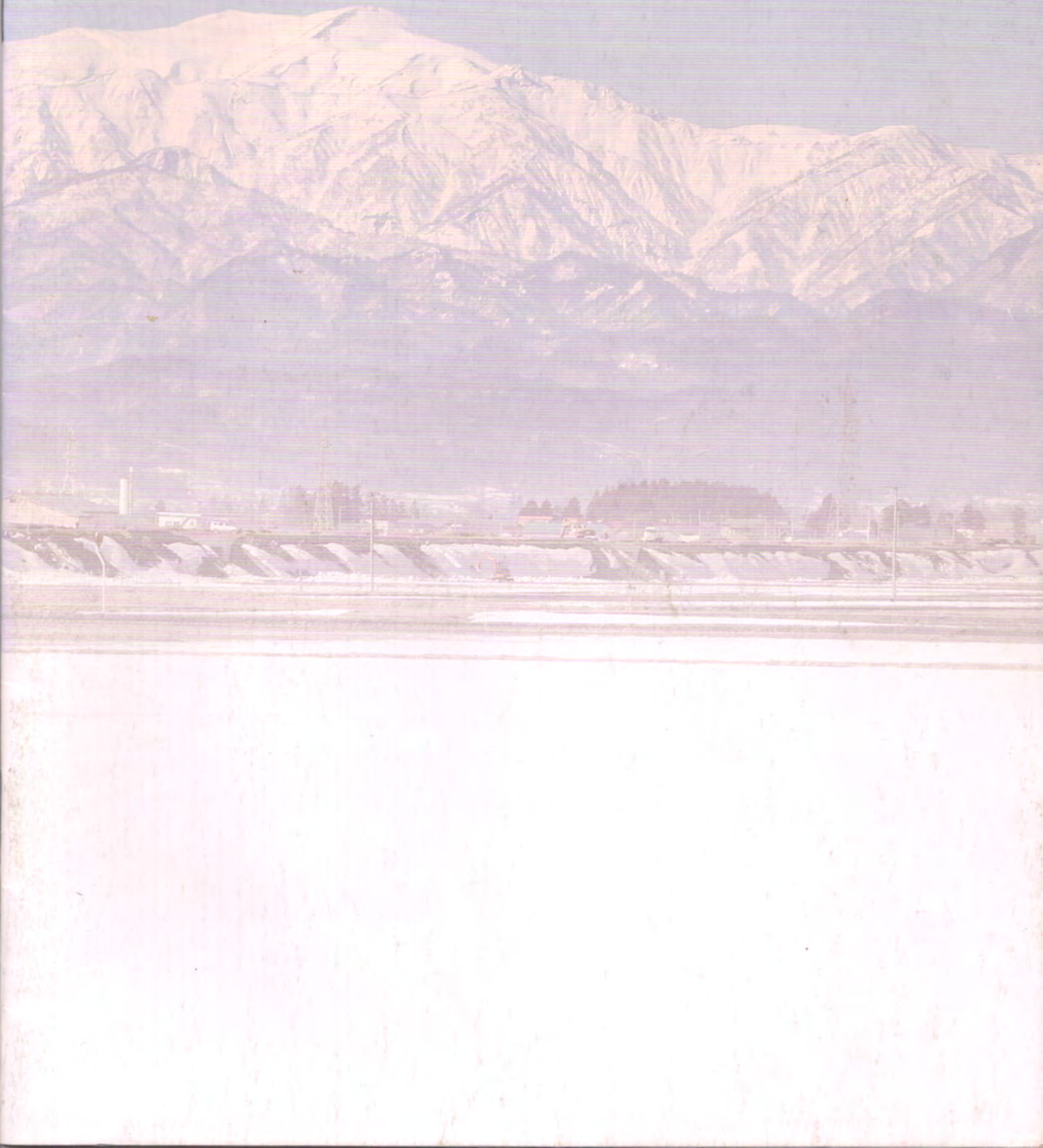


平成26年度福島県地域づくり総合支援事業(サポート事業)／喜多方市ふるさと創生事業
蔵のまち喜多方復興まちづくり事業

新・北方美術倶楽部 喜多方で学ぶ北の魅力 記録集



蔵のまち喜多方復興まちづくり事業

新・北方美術倶楽部 喜多方で学ぶ北の魅力

主催：蔵の会

実施期間：2014年7月～2015年2月

2014年7～9月：会場視察・調査・制作

2014年10～11月：展示公開

2015年1～2月：記録集作成

喜多方はかつて文化芸術支援の先進地でした。大正7年に「喜多方美術倶楽部」が結成され、将来有望と目された芸術家を会津・喜多方地域に招聘し作品制作を支援していた先例があることをご存じでしょうか。芸術愛好にとどまらず同会は、会員の自由な発表活動を支援し、芸術家の眼を活かした漆器業など地域産業の活性化にも取り組んでいました。

「新・北方美術倶楽部」事業は、こうした文化芸術を柱としたホスピタリティー豊かな地域性を今一度活性化し、地域住民が多様な文化芸術を身近に参加・体験できる場を創り出し、喜多方で活動する若手作家を支援することを目的として展開しました。

「喜多方」を「北方」としたのは、喜多方一地域の文化にとどまることなく、喜多方の地から広く東北の文化・精神性に関わりたいと願っているためです。喜多方での体験が東北、世界の多様性を学ぶきっかけとなれば、それが本事業の最大の成果です。

昨年度開催した、新北方美術倶楽部プレ企画展「喜多方らぶアート」は、これまで喜多方での縁を結んだアーティスト達のつながりを強める成果をあげました。今年度はそれを引き継ぎ、「新・北方美術倶楽部」の事業として、喜多方での活動経験のある若手アーティスト、近隣の美術系大学の活動を誘致。5組の大学研究室・アーティストが参加し、喜多方の歴史・風土に学びながら、生き生きとした作品を制作しました。また、事業の一環として日本を代表するアーティストを招いての勉強会も実施。若いアーティストたちの学びの場を設けることもできました。

新・北方美術倶楽部展覧会「喜多方で学ぶ北の魅力」

会 期：10月11日（土）～11月23日（日）

*会場により会期は異なる。

展示会場：喜多方蔵の里 イベント蔵、大和川酒蔵北方風土館、
旧星医院、絵本の蔵



新・北方美術倶楽部勉強会「福島で表現するということ」

日 時：10月31日（日）17:00～18:30

講 師：小沢剛（アーティスト）

会 場：大和川酒蔵北方風土館 長志久庵



ごあいさつ

平成26年度福島県サポート事業、喜多方市ふるさと創生事業による蔵の会主催事業「新・北方美術倶楽部 喜多方で学ぶ北の魅力」の記録集をお届けできることになりました。

この事業にご参加いただいた皆様、及びご支援、ご指導、ご協力を賜りました関係各位に深く感謝申し上げます。

大正時代に喜多方の商工業者が中心となって展開した喜多方美術倶楽部の活動は、芸術家の地域滞在支援、地域への成果の還元、個人の趣味にとどまらない視野など先進的な試みを多く抱えていました。この志を継承すべく取り組んでいる本事業に、今年度は、5組の若手芸術家、芸術を学ぶ学生たちが参加しました。

東北芸術工科大学大学院の久松知子さんは、その名も「喜多方美術倶楽部の絵」と題した作品群で時代を超えて喜多方美術倶楽部の活動をあらたに解釈してくれました。

東北芸術工科大学チュートリアル「東北画は可能か？」のチームは、大作の温泉画「奥羽六泉郷～未知の奥へ～」を喜多方でのリサーチを経て共同で仕上げました。

筑波大学大学院芸術専攻クラフト領域の福島梓さんは、雄国の根曲竹細工の職人さんたちに学び、ものづくりの心を伝える物語を創作しました。

上越教育大学伊藤将和研究室の皆さんは、長い間、医療を通じて地域に貢献した旧星医院の一部を画廊としてみごとに再生させました。

佐藤香さんは、2年をかけて小田付通りの一棟の土蔵に土の壁画を描き、夢のあふれる空間を作ってくれました。

喜多方がこれまでに培ってきた歴史と文化を広く県内外の若き芸術家たちに伝え、彼らを通して喜多方から次世代に伝える新しい文化を発信する。世代を超えた文化交流は、確実に成果を上げつつあります。彼らの滞在は、建物をよみがえらせただけでなく、喜多方の多くの人々に自分たちの土地の文化、自然の魅力、懐かしい記憶を思い返すきっかけを与えてくれました。

更に、参加者の中からは、国内の大きな美術賞受賞の栄誉を得た方も出ました。

このように、喜多方域内の文化の発展、喜多方発の文化発信、この内外の両輪によって本事業は、力強く進んでいくものと思います。

今後は、本事業を出発点として地域文化の発展・発信のモデル創りに尽力する所存ですので、皆様の一層のご支援を心よりお願いいたします。

蔵の会会長 上野利八

喜多方蔵の会



画廊 星醫院誕生

昭和初期の古い木造の建物の再利用を勧められ、一部提供する事にしたのが、始まりだった。2014年9月9日から、上越教育大学伊藤将和研究室の方々が、不要物（軽トラック3台分）を捨て、使っていなかった部屋の掃除をし、壁の塗り直し、襖の張りかえ等々、物凄い若さの勢いのある作業をし、3部屋が甦った。

☆マークが入った画廊星醫院の文字が入口に貼られた時、亡院長が大好きだったホシ印があると大喜びしているだろうと思い、涙がでる程感激した。立看板にもホシが入り、杉玉もさげられ、オープニング企画・STARTが始まった。STAR(星)ART(芸術) 始まりの一步・夜空に浮かぶ星座のように繋がりを作れる場になるようにという意味が込められた標題も、若い人達感覚と知恵が詰まっていると嬉しく思った。

この企画に参加したい人と、私の作品が素敵に配置展示され、作業状況の映像が音楽とともにながれる中、多くの人に観てもらえ、好評を得ることが出来た。成功！成功！

私にとってこの数ヶ月の再生作業は、今でも夢の中の出来事のような大事件だった。若い方々との交流も楽しく、得る事も多くあったので、もっと応援しなければならなかったのにと反省している。

参加した方々のその後の勉強ぶりも、フェイスブックで垣間見ることが出来、頑張っているなど、頼もしく、うれしく思っている。

彼等にとって、この過酷な体験が役立つ事を願い、明るい未来に向かって、一步一步進んで行く事を祈り、私に喜びと力をくれた事に感謝している。そして、この企画が成功して、明日に繋がることが出来る事を確信している今日この頃である。

この企画に協力・応援して下さいった皆様方に、心より感謝申し上げます。

星 陽子

「絵本の蔵」の未来へ

まず、今回佐藤香さんに作品の制作・展示を行っていただいた蔵（蔵屋敷全体）について。この蔵のある蔵屋敷は、蔵の町・喜多方の中でも蔵が集積する小田付地区の中心にあり、長い間空き家として維持管理がされずに老朽・荒廃化が問題視されていた。私たち会津北方小田付郷町衆会は、小田付の蔵の町並みを守り向上させることによって、喜多方地域の活性化を目標として活動している団体で、この蔵屋敷の老朽・荒廃化の問題は、避けて通ることができないものだった。

東日本大震災で、この蔵の壁が一部崩落したことを契機に、遠方に暮らす所有者と交渉し、この蔵の補修を官民学一体となって始めた。補修を重ねていくにつれ、「補修していただくだけでは蔵を守ることはきっとできない、蔵を守っていくには維持管理するための仕組み（活用の仕方）を考えなければならない」という意見が挙がり、喜多方地域で問題となり始めている空き家問題の根本的対処法として、子育てしやすい地域をつくろうというビジョンから、蔵の子育て支援施設「絵本の蔵」という活用案が挙がった。このように「絵本の蔵」は子どもたちや子育て世代を対象とすることとしたが、長年の維持管理不足が顕著で、子育て支援施設には程遠い、まったくと言っていいほど未来を感じさせない蔵だった。

「絵本の蔵」に向けて試行錯誤しながら取り組んでいる中で、今回、佐藤香さんに作品の制作・展示を行っていただく機会を得た。佐藤さんという若い女性の感性を活かしていただき、また伝統的建造物である蔵というイメージにも合わせた作品を展示していただいたことは、この蔵にとって、真つ暗闇に明かりがさしたような、希望を抱けるものとなった。まだまだ「絵本の蔵」には課題が山積みだが、今では、きっと未来があるものと感じている。

今回、土絵アーティスト佐藤香さんに出会えたことは、私たちにとってとても幸運であり、アートの力を肌で感じる機会となった。佐藤さんをはじめ、コーディネートしてくださった皆様様に感謝しております。

井上 篤





東北芸術工科大学大学院 久松知子「喜多方美術倶楽部の絵」

大正時代、山都の田代蘇陽が中心になって組織された「喜多方美術倶楽部」によって、小川芋銭、森田恒友、石井柏亭らといった洋画家や日本画家たちが逗留した際に描いた絵画がある。当時の喜多方の社会の反映としての美術を、それらの絵から見る事が出来る。「喜多方美術倶楽部の絵」では、東北芸術工科大学大学院生の久松知子が、かつて喜多方を舞台に描かれた作品をリサーチし、過去と現代を接続する絵画を制作した。

展示会期：11月10日（月）～11月23日（日）
展示会場：喜多方蔵の里 イベント蔵（喜多方市押切二丁目109）

トークイベント「喜多方美術倶楽部に学ぶ」
日時：11月16日（日）15:00～16:00
会場：喜多方蔵の里イベント蔵
出演：後藤學（喜多方市美術館館長）× 久松知子



■プロフィール

三重県出身。東北芸術工科大学大学院在籍。チュートリアル「東北画は可能か？」に2011年より参加。2012年会津・漆の芸術祭2012、2013年喜多方・夢・アートプロジェクト2013にそれぞれ「東北画は可能か？」メンバーとして参加。2014年、「レパゼン日本の美術」で第18回岡本太郎現代芸術賞（TARO賞）にて岡本敏子賞受賞。



■活動コメント

私は喜多方の「喜多方美術倶楽部」や「セピロマ会」といった郷土の美術史に興味がある。価値のある歴史が現在も意識的に継承されていることが喜多方の魅力だ。そのような環境とご縁が生まれ私も作品を作ることができる事に喜びを感じる。

私は大学院の研究では美術史を参照した絵画の制作を行っている。今回は、喜多方の美術史を参照し、追体験し作品にすることを目指した。私自身が歴史を学び、それをシェアする編集のような作品の作り方を試みた。トークイベントや手書きのチラシも含め作品だ。

展示会場のブッキングの調整の必要が発生した際に、地域に関わって美術の活動をする場合、既存の美術館やギャラリーでは当たり前の美術の制度は通用しない困難さとの直面が印象的だった。美術は社会の中で決して制度に守られていないという価値の弱さを体感した。喜多方は地域アートというジャンルの素晴らしい点も問題点も同時に発見する場所だと感じている。

久松知子

■活動内容

- 8月30日(土) 取材。東北芸術工科大学チュートリアル「東北画は可能か？」チーム温泉画と共に NPO 法人まちづくり喜多方代表の蛭川靖弘さん、制作拠点としてお世話になる星陽子さんにご挨拶。元喜多方市文化課長の小澤弘道さんに熱塩温泉示現寺・いいでの湯等の史跡をご案内いただく。
- 8月31日(日) 取材。小澤弘道さんに山都町の喜多方美術倶楽部に関連する場所(南山荘跡、田代酒店など)をご案内いただく。関連資料をお借りする。夕方より、小沢剛さん講師の勉強会に参加。展示プランを講評していただく。
- 9月7日(日) 取材。蔵座敷美術館観覧。小澤弘道さんにお借りした資料を返却。
- 9月22日(月) 喜多方市山都町でスケッチ。大和川酒蔵にて滞在制作。
～25日(木)
- 10月11日(土) 大和川酒蔵にて滞在制作。
～12日(日)
- 10月13日(月) 取材。福島県立美術館にて学芸員の増渕鏡子さんにお会いし、喜多方美術倶楽部についてご教示いただく。喜多方美術倶楽部ゆかりの小川千穂の展覧会を観覧。
- 10月24日(金) 大和川酒蔵にて滞在制作。
～27日(月)
- 11月9日(日) 喜多方蔵の里イベント蔵にて展示設営。
- 11月10日(月) 展示発表。
～23日(日)
- 11月14日(金) 喜多方市美術館館長の後藤學さんとトークイベント打ち合わせ。
- 11月16日(日) 喜多方蔵の里イベント蔵にてトークイベント「喜多方美術倶楽部に学ぶ」開催。
登壇者：後藤學氏(喜多方市美術館館長)、久松知子。喜多方美術倶楽部や喜多方に関わりのある画家などについて文献を見ながらお話ししていただく。
- 11月24日(月) 展示撤出。





東北芸術工科大学チュートリアル「東北画は可能か？」 チーム温泉画「奥羽六泉郷～未知の奥へ～」

■メンバー■ 青木みのり 藤本啓行 坂下晴香 高野加菜 青木忠史 佐藤恵
石原葉 横井えり 金丸実華子 鈴木咲穂 大窪萌木 神谷恵
星野郁子 市川まゆ 菅野耕平 川合南菜子 今野麻亜也 天羽和泉
落合里香 柴田雄輝

「奥羽六泉郷」という共同制作作品では、「東北そのもの」が「温泉」となっており、あらゆるものが、お湯に浸かっている。制作するにあたって、喜多方市にて合宿しながら取材。熱塩の開湯伝説、飯豊山と温泉の関係など、様々なことを勉強した。作中には喜多方・会津ゆかりのモチーフも多数登場する。生きとし生けるものたちが、東北の地の温泉で1つになる。作品を通して、古代から脈々と受け継がれてきた温泉の力、「未知の奥」に潜む東北の魅力を伝えた。

展示会期：11月10日（月）～11月23日（日）
展示会場：喜多方蔵の里 イベント蔵（喜多方市押切二丁目109）



■プロフィール

東北芸術工科大学で三瀬夏之介、鴻崎正武両准教授の指導のもと、2009年より行っているチュートリアル活動。「東北画は可能か？」というテーマを掲げて、大学が所在する山形市を中心に県内外で活動している。2014年に「温泉」をテーマとしたチーム温泉画は、青木みのりをリーダーとする20名からなる。





■ 活動コメント

私たちチーム温泉画は2014年の8月から9月にかけて喜多方市で合宿し、11月に成果発表として展示を行った。共同制作である「奥羽六泉郷～未知の奥へ～」という作品では、喜多方市に関わるモチーフが多数登場する。合宿の際、案内していただいた熱塩温泉やいいでの湯がこれに当たる。熱塩温泉では開湯伝説を学んだ。作品中にも開祖である源翁がとんかちを持った姿で登場する。いいでの湯では実際に入浴し、飯豊山を参拝に訪れた人々がその帰りに疲れた体を癒すという、地域と温泉の深い関わりを知ることができた。作中では、飯豊山を温泉の背景として描き、会津の人々の心の拠り所を表現した。また、赤べこや小法師、酒樽など、合宿中に見つけた喜多方ならではのモチーフも描かれている。取材するほど、描きたいものが見つかる、有意義な合宿であった。11月の展示では、お世話になった人々に作品を見ていただくことができた。喜多方の町の優しさがとても印象的だった。

青木みのり

■ 活動内容

- 8月30日(土) 制作場所としてお世話になる旧星医院の弓道場を清掃。喜多方での活動でお世話になる喜多方まちづくりセンターにご挨拶。続いて喜多方市内の温泉に関わる史跡等をリサーチ。元喜多方市文化課長の小澤弘道さんに熱塩温泉や山都町にある「いいでの湯」などを案内していただく。
- 8月31日(日) 旧星医院弓道場にて本格的に制作を開始。夕方から、アーティストの小沢剛さんの勉強会に参加。引き続き、福島県立博物館学芸員の川延安直さん、小林めぐみさん、喜多方市美術館の学芸員の皆さん、蔵の会のみなさんに、温泉画についてプレゼン。アドバイスをいただく。
- 9月1日(月) 旧星医院弓道場にて制作。
～7日(日)
- 11月10日(月) 喜多方蔵の里イベント蔵にて共同制作「奥羽六泉郷～未知の奥へ～」及びアーカイブ作品「喜多方合宿」を展示。
～23日(日)





筑波大学大学院芸術専攻クラフト領域 福島梓「雄国の竹取ものがたり」

「雄国の竹取ものがたり」は、喜多方市雄国地区の伝統工芸、雄国根曲竹細工を題材とし、リサーチをもとに福島梓が創作した民話。約 350 年前に始まったとされるこの竹細工は、かつては生活の様々な場面に登場した。雄国根曲竹細工、その背景にはどんな風景があり、どんな暮らしがあったのか。喜多方の風土、文化、そして人々から生まれた竹細工を、物語という形で生まれ変わらせた。

展示会期：11 月 9 日（日）～11 月 23 日（日）
展示会場：大和川酒蔵北方風土館（喜多方市寺町 4761）

語りライブ「雄国の竹取ものがたり」
日時：11 月 23 日（日）17:00 ～
会場：大和川酒蔵北方風土館 良志久庵
宮原克人（筑波大学准教授）× 福島梓



■プロフィール

大阪府出身。筑波大学大学院芸術専攻クラフト領域在籍。宮原克人准教授の指導のもと、木工や漆芸を中心に日本の手仕事を学ぶ。宮原克人研究室のメンバーとして、2012 年会津・漆の芸術祭 2012、2013 年喜多方・夢・アートプロジェクト 2013 に参加。2014 年、竹紙に漆を用いたブックカバー「竹取の宝」で非木材グリーン協会アワードの GOLD 賞と審査員特別賞を受賞。



■ 活動コメント

今回私は、喜多方市雄国地区の伝統工芸である雄国根曲竹細工を題材にした創作民話を制作した。雄国根曲竹細工保存会の職人さん達への取材だけでなく、喜多方に住む様々な人たちとの交流が創作民話の一部となった。竹細工にまつわる事実だけでなく、私の感じた喜多方という地域の持つあたたかさが伝わるような物語にしようと思った。

新・北方美術倶楽部のような地域滞在型の創作活動の醍醐味は、〈ここにしかないもの〉を使って作品制作ができることだ。〈ここにしかないもの〉とは材料だけではない。題材、空気感、精神、心。作品の要素となり得るもの全てである。喜多方には豊かな自然があり、それに培われた豊かな農業、食、伝統産業があり、豊かな人が育つ文化がある。それらは全て〈ここにしかないもの〉である。喜多方が観光地としても人気があるのは、外部の人にとって〈ここにしかないもの〉がとても魅力的だからなのではないだろうか。私も喜多方で2週間過ごし、喜多方の〈ここにしかないもの〉の魅力を肌で感じた。

そして、取材を通して少しだけ深く喜多方に触れて気付かされたのは、〈ここにしかないもの〉は誰かの手によって守り継がれているということだった。雄国根曲竹細工も、職人さん達が作り続けるからこそ存在している。しかし、保存会には若い引き継ぎ手が居ない。職人さんは「竹は儲かんねえから」と笑うだけであった。もしもこのまま、竹細工に関わる人がいなくなったら――。

新・北方美術倶楽部への切なる願いは、芸術を学ぶ学生が地域のものに触れ地域の人々と交流して、〈ここにしかないもの〉を使ってその魅力を表現する作品が作られること。作品を通じて、喜多方に住む一人でも多くの人たちが〈ここにしかないもの〉の魅力を共有すること。そして、〈ここにしかないもの〉を守る一員が増えることである。地域の人の手によってのみ、〈ここにしかないもの〉は続いていくことができるのだから。

福島 梓

■ 活動内容

- 8月19日(火) 雄国根曲竹細工保存会武藤氏と取材についての打ち合わせ。
- 8月20日(水) 雄国根曲竹細工保存会のみなさんに、竹細工の取材。
～21日(木)
- 8月22日(金) 午前、NPO 法人まちづくり喜多方でスピーチ&ディスカッション「ぜんまい」に「おもしろい寓話とは？」をテーマに参加。午後、同NPOスタッフとアーティストの滝沢達史さんの打ち合わせに同行。
- 8月23日(土) 喜多方市山都町豊年祭見学。絵本の蔵見学。
- 8月24日(日) 喜多方市雄国地区を自転車であぐり環境風土を調査。
- 8月25日(月) 福島大学による会津の語り部山田登志美さんへの取材に同行。
- 8月26日(火) 喜多方市立図書館にて、雄国についての資料閲覧。
- 8月27日(水) 福島県立博物館見学。同館専門員佐々木長生氏より、民具についてのお話を伺う。
- 8月28日(木) 午前、元喜多方市文化課長の小澤弘道氏より、喜多方にまつわる伝説、伝承のお話を伺う。午後、喜多方蔵の里を見学。
- 8月29日(金) 猫魔ヶ岳～雄国山登山。
- 8月30日(土) これまでの活動をまとめ、作品プランを練る。
- 8月31日(日) 喜多方市山都町で行われていた相川百姓市見学。喜多方の食文化を調査。夕方から、大和川酒蔵にて新・北方美術倶楽部勉強会に参加。
- 9月2日(火) 森姫農園にて農泊。同農園千世蘭子氏に、雄国の里山での生活を取材。
～5日(金)



上越教育大学伊藤将和研究室 「画廊星醫院」

■メンバー■ 伊藤将和 大野ますみ 有坂泉 伊藤未来 関口あい 吉澤陵 瀧澤秀樹
石浦志帆 竹下万生 益子康平 山本和雄 大澤彩香 楊蕢繁

上越教育大学伊藤研究室は、喜多方に在住されている星陽子さんのお宅に併設されている、現在使われていない旧星医院の3室をリノベーションし、「画廊星醫院」として再生させた。長い間地域に親しまれてきた星医院を、新たな美術交流の場として喜多方に作り上げることによって、この「画廊星醫院」が、この先につながっていく一つの文化交流の拠点となることを目指した。

オープン展「START」

展示会期：11月17日（月）～11月23日（日）

展示会場：旧星医院（喜多方市字小田付道上7025）



■プロフィール

上越教育大学で伊藤将和准教授のもと、美術教育を学ぶ大学生・大学院生の有志14名によるチーム。上越教育大学伊藤将和研究室は、これまで会津・漆の芸術祭2011、会津・漆の芸術祭2012、喜多方・夢・アートプロジェクト2013にも参加している。



■活動コメント

私たち上越教育大学伊藤研究室は、星陽子さんの自宅に併設された旧星医院の病室3室をリノベーションし、『画廊星醫院』として再生させた。開廊に向けて、まずはじめに取りかかった作業は、旧医院の大掃除であった。星さんと一緒に医院の歴史をなぞりながら、一つ一つ整理し、病室を片付けた。壁の修繕方法や、展示空間への改善案を出し合いながら作業を進めた。新潟と福島を何度も往復し、14人の参加メンバーが入れ替わり立ち替わりで活動は続けられた。

開廊を記念した企画展『START』の展覧会名は、星さんのお名前と同じ「STAR(星)」や、「ART(芸術)」といった意味も含まれている。また、「はじまりの一步」となるようにとの願いも込め名付けた。展覧会の連日の大盛況は、星さんの人徳を物語っていた。医院がまだ開業していた頃の知人の方も多数訪れてくださり、星ご夫妻の喜多方に対する貢献を、私たちも一緒に振り返り、噛み締めるような充実した毎日であった。こうして展覧会は盛況のうちに終了を迎えることができた。

本企画の発端当初に掲げた、「喜多方に新たな美術交流の場をつくりあげる」という目標は、私たちの理想を超えて大きく達成された。今後この画廊で、美術活動が展開され、様々な方々の交流が生まれて欲しい。まさに夜空に浮かぶ星座のように繋がりを作れる場になればと願う。

私たちは、画廊を作り上げ展覧会を終えるまでの期間の中で、星さんをはじめ、多くの喜多方に暮らす人々と関わった。そしてその方々と直接言葉を交わし、喜多方について、美術について語り合える機会を得られた。これは、何物にも代え難い経験であった。

そして何よりも、この企画を通して私たち自身が得たものの大きさは計り知れない。『START』展の開催中、医院の掃除から展覧会の開催までの様子を映像として公開していた。星さんがこの映像をご覧になった時につぶやいた、「宝物だ」という言葉、それこそが私たちが本企画で得たすべてである。

石浦志帆

■活動内容

- 8月1日(金) 喜多方市内リサーチ。喜多方まちづくりセンターにて NPO 法人まちづくり喜多方代表理事の蛭川靖弘さんから喜多方についてレクチャーしていただく。
- 8月2日(土) 事
- 9月2日(火) 福島県立博物館学芸員の川延安直さん、小林めぐみさんと打ち合わせ。その後、旧星医院視察。および今後の方針について相談。
- 9月9日(火) 旧星医院リノベーション作業1回目。室内の大掃除。片付け。
- 9月10日(水)
- 10月10日(金) 星陽子さんとリノベーションについての打ち合わせ。今後の予定を確認。
- 10月18日(土) 旧星医院リノベーション作業2回目。壁の修繕。電気屋さんとライト設置に関する打ち合わせ。
- 10月19日(日)
- 10月26日(日) 旧星医院リノベーション作業3回目。壁の修繕、仕上げ作業。ピクチャーレール設置。
- 10月27日(月) イ
- 11月5日(水) 旧星医院リノベーション作業4回目。ゴザ張り替え作業。そのほか展示空間の仕上げ。
- 11月16日(日) 作品展示作業。
- 11月17日(月) 作品展示期間。
- 11月25日(水)
- 11月17日(月) オープニングパーティーを開催。
- 11月25日(水) 搬出作業。



佐藤香 「絵本の蔵の土の花 花々の夢」

佐藤香は、絵本の蔵の土間の空間に不思議な花の絵を、土壁にフレスコ技法で漆喰と土で描き、板壁に接着剤を混ぜた土で描いた。土は喜多方の様々な場所から採取。ひび割れた土壁の存在感と昔話に迷いこんだような絵の空間が、絵本の世界へ人々を誘うことを願って。

展示会期：10月11日（土）～11月23日（日）

展示会場：絵本の蔵（喜多方市南町 2850）

■プロフィール

福島県出身。東北芸術工科大学卒業。東京藝術大学大学院修了。2012年から作家活動を開始。訪れた土地の様々な色の土を集め、その土で描く作品を制作。2012年、会津・漆の芸術祭 2012（喜多方市）、2013年原始感覚美術祭 2013（長野県大町市）、風と土の芸術祭 2013（会津美里町）、2014年「手作り本仕込みゲイジユツ」（はじまりの美術館）、玄玄天（いわき市）に参加。



■活動コメント

私は絵本の蔵の壁画を担当し、昨年から制作している。怪しげで動き出しそうな花々を描き、絵本の中に入り込んだようなイメージの壁画である。今回も2週間かけ壁画の続きを滞在しながら制作した。

喜多方は面倒見が良いリーダーがいる街で、滞在制作している中で、よそ者や新しいことを拒まず受け入れる精神にいつも救われる。今回も心おきなく活動でき、様々な方にお世話になった。そして、街を良くしようと動いている人々がたくさんいることも印象深い。それだけ喜多方という場所が魅力的であり、残すべき文化がたくさんあるということだろう。中でも、古い蔵が残る街並みは有名で福島県内でも人気の観光地だが、そんな建物を守り残していくには多大なる労力が必要であると滞在をきっかけに知った。立派な建物ほど個人では管理するのが大変でもう住む人がいなくなってしまった建物もあるようだ。

今回制作した絵本の蔵も一度使われなくなった小さな土蔵だった。名前の通り、絵本の児童図書館として子供達や親子で集える場所になる予定だ。味噌屋「金忠」の井上篤さんを中心に小田付地区の人々が協力し合い創り上げてきている場所で、少しずつ直しながら継続して変化していく建物だ。人が集える場所を作るのは時間が掛かることだし、継続して創り上げていくことは大変なことだ。壁画も描くことよりも残すことの方が難しい。まだまだ変化していく蔵と一緒に私の絵も完成したとはいえない。建物が変化すると共に壁画も変化し、一緒に完成していく空間になればと考えている。使われなくなった場所を再び明るい場所にするにはアートができる役割のひとつだ。これからも絵本の蔵がどのように変化するか見守りながら、アートが喜多方の良いものを残していく手助けになればと渴望している。

佐藤 香

■活動内容

9月15日(月) 絵本の蔵にて滞在制作。2013年度の壁画の続き(入口から右側の土壁、奥の部屋入口正面の板壁2面)を制作。昨年度同様、「金忠」の井上篤さんに制作のサポートをしていただく。

【絵本の蔵で使用した土】

田付川付近の広場の土 金親丈史さんからいただいた喜多方の登り窯のレンガの土 熱塩加納の土手の土 山都に行く山道の土① 山都に行く山道の土②

9月24日(水) 絵本作家の飯野和好さんに、絵本の蔵の空間プロデュースについて指導していただく。
10月10日(金) 作品完成。
10月11日(土) 展示公開期間。
～11月23日(日)
11月8日(土) 展示用に採取した土を追加設営。





平成 26 年度福島県地域づくり総合支援事業(サポート事業)

喜多方市ふるさと創生事業

蔵のまち喜多方復興まちづくり事業

新・北方美術倶楽部 喜多方で学ぶ北の魅力 記録集

発 行：蔵の会

〒966-0861 喜多方市字寺町4761 (大和川酒蔵北方風土館内)

撮 影：おおやぎ かおる

制 作：有限会社 企画キャップ

発行日：2015年2月25日